頴娃小学校は，今年で創立１５４周年です。

教育目標……故郷に誇りをもち，気付き，考え，行動し，未来を担う頴娃の子を育てる

大野岳

令和5年度頴娃小学校学校便り 8月号
令和5年8月1日発行
【学校所在地】南九州市頴娃町郡9201
【TEL】0993−36−0012
【FAX】0993−36−0066

めざす家庭の姿　優しさと厳しさのある家庭　学習・生活習慣を躾ける家庭
学校と連携する家庭　体験活動を大切にする家庭

豊かな経験は，その後の人生の糧

校長　下野　彰久

本日は出校日。日やけした顔がそろいました。夏休みは１０日余り過ぎましたが，大きな事故や怪我の報告もなく，元気に過ごしている様子がうかがえます。

さて，私の小学校時代の夏休みについて，少しお話しします。小学４年生時代は，鹿児島市の原良小学校で過ごしました。夏休み前，私は，母のアドバイスで図工の作品作りに取り組みました。「ぼくのデザイン帳」なるものです。毎日１枚，新聞の折込チラシの裏にクレヨンや色鉛筆，絵の具などで色を付けたデザインを描き，４０日分を綴じ紐で綴って提出しました。それを，担任の黒崎先生が級友の前でとても誉めてくださったことを憶えています。母のアドバイス，毎日の取組，誉められた経験は，その後，私が大学で美術科を選択することにつながりました。

このように，夏休みの経験は，２学期以降の学校生活だけでなく，将来の生き方に役立つこともあります。夏休みは残り３０日。子供たちの学習課題への取組に対して，励ましや賞賛の言葉かけをよろしくお願いします。

ナイター陸上開催！

７月２６日(水)の１８：００から頴娃運動公園陸上競技場でナイター陸上競技会が開催され，本校児童は５年生８名，６年生８名が参加しました。自分たちが出場してみたい種目へエントリーし，持てる力を力一杯発揮しました。２学期は運動会や陸上記録会・持久走大会など運動をする機会が一気に多くなります。今大会で目標の記録や順位を達成できなかった子供もいたかもしれませんが，今から目標を決めて，練習を開始してもいいかもしれませんね。

小学女子１００ｍ（３位）U.O　15秒4
小学生男子１００ｍ（２位）S.H　14秒３
小学女子８００ｍ（１位）A.S　３分７秒６　　小学男子走り幅跳び（３位）S.H　3m94㎝
小学女子４×１００ｍリレー（３位）S.K･I.R・M.H・A.S　１分３秒

かごしま国体炬火リレー

１０月の「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」に参加する選手の皆さんや県民の気運を高め,心に残るイベントにするために行われる「炬火リレー」。県内３コースに分かれ，行われました。薩摩コースの南九州市は,７月２４日(月)に頴娃小学校をスタート地点として開催されました。公募で選ばれた６名の頴娃小児童と多くの来賓や保護者の方々が頴娃小学校に集まり,朝９時に頴娃小学校前を６名がスタートしました。炬火を持った５年Y.Hさんを先頭に，国体旗や市旗をもった子どもたちが元気いっぱいに走り出しました。

炬火リレーランナー　２年　S.K　　４年　S.M　　５年　Y.H　　N.S
６年　S.H　　F.Y

夏祭りに向けて！ソーラン！ソーラン！

来る８月２６日(土)に開催の「郡地区夏祭り」に向けて，本校６年生は,「ソーラン節」の練習をスタートしました。低い姿勢で長い時間我慢したり,網を引く漁師の動きを何度も確認したり,講師の先生の指導のもと，汗をいっぱい流しながら練習をがんばっています。練習に励む子どもたちの表情には「本番は成功させるぞ！」「以前の先輩達を超えてやるぞ！」という意気込みが感じられます。本番を楽しみにしておいてください。

「平和」について考えてみてください

頴娃小学校の掲示板には，子供たちが興味・関心を示すようにと，担当教諭が毎月工夫を凝らして掲示しています。中でも，正面玄関の掲示板には，季節を表す言葉や新聞記事，作文など，子供の季節感や感受性，表現力を高めるための仕掛けが盛りだくさん。立ち止まり，じっくりと読み入ってしまいます。

８月は，「平和への祈り」をテーマに構成されています。その中に「平和へのメッセージ from 知覧　スピーチコンテスト」に出品した作文が掲示してあります。今回は，５年生の作品を紹介します。

８月１５日は終戦記念日です。平和について御家庭でも話し合ってみてください。

私の当たり前は平和の証

五年　S・C

私は、「戦争」について、何も知りませんでした。これまで、大好きな家族と一緒に幸せに暮らしてきました。しかし、最近、「戦争」という言葉をよく聞くようになり、その様子をテレビで見ることも増えてきました。建物にばくだんが落とされ、家族と離ればなれになってしまい、一人で泣いている子どもがいました。あるお父さんは、家族と国を守るために戦っていました。そこには、私が知っている平和な世界や家族と過ごす当たり前の時間はありませんでした。

今から七十八年前、日本も戦争をしていました。南九州市には、特攻隊の出げき基地であった知覧飛行場があり、ここから多くの人が飛び立ちました。私は、知覧特攻平和会館に行ったことがあります。そこには、家族にあてた手紙や特攻隊員の洋服、多くの写真などがありました。実際に使われてこわれた特攻機もありました。特攻機に乗って亡くなった人は、全員で四百三十九人。どんな思いで特攻機に乗ったのか。どんな思いで家族に手紙を書いたのか。死ぬことが分かっていながら戦争に行くことは、考えるだけでこわいし、悲しくなります。もし、お父さんやおじいちゃんが戦争で亡くなったら、私は悲しくてずっと泣いていると思います。「戦争」は、多くの人の命だけでなく、希望や夢もあっという間にうばっていきます。それほど、おそろしいものだと思います。

私のひいおじいちゃんは、二人が戦争に行きました。一人は、戦争に行ったときの写真が残っています。写真では、長い銃を持っていました。戦争が終わると、無事に帰ってきました。そのとき、ひいおばあちゃんは、泣いて喜んだそうです。もう一人は、中国に行っていました。おじいちゃんは、そこで生まれました。中国に行ったひいおじいちゃんは、船に乗っていたところ、ばくだんを落とされて亡くなりました。ひいおばあちゃんは、小さな子ども二人を連れて、必死で日本へ帰ってきたそうです。三人が無事に帰ってくることができて、よかったと思います、

私は、家族から戦争の話を聞くことで、テレビで見た子どものように、また、特攻隊員の手紙に書き記されていたように、私の家族も辛く苦しい思いをしてきたことを知りました。

日本は今、一番平和な国だと言われているそうです。爆弾の音におびえたことはないし、家族と離ればなれになることもありません。毎日、おいしいご飯を食べて、友達と楽しく遊び、大きな声で笑い、好きなことをして過ごしています。当たり前の時間を過ごしています。

この当たり前の日々が平和の証です。そんな日々が、世界中に広まることを願っています。